

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	<u>11</u>
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	<u>2</u>
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	<u>6</u>
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	<u>11</u>
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	<u>30</u>

事業所番号	2772500720
法人名	特定非営利活動法人アポロン介護事業団
事業所名	グループホームアポロン池田
訪問調査日	平成20年10月28日
評価確定日	平成20年12月8日
評価機関名	NPO法人 ナルク福祉調査センター

○項目番号について
 外部評価は30項目です。
 「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。
 「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。
 番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法
 [取り組みの事実]
 ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。
 [取り組みを期待したい項目]
 確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。
 [取り組みを期待したい内容]
 「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明
 家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
 家族 = 家族に限定しています。
 運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。
 職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。
 チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日 2008年11月14日

【評価実施概要】

事業所番号	2772500720
法人名	特定非営利活動法人アポロン介護事業団
事業所名	グループホームアポロン池田
所在地	大阪府池田市木部町416 (電話) 072-753-3151

評価機関名	特定非営利活動法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ		
所在地	大阪府中央区常盤町二丁目1番8号親和ビル402号		
訪問調査日	平成20年10月28日	評価確定日	平成20年12月8日

【情報提供票より】(平成20年10月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成20年12月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	19人	常勤10人	非常勤9人 常勤換算15.0人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨造り		
	2階建ての	1階	～ 2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	70,000 円	その他の経費(月額)	30,000 円	
敷金	有(400,000円)			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(300,000円)	有りの場合 償却の有無	有(1ヶ月間)	
食材料費	朝食	250 円	昼食	500 円
	夕食	500 円	おやつ	65 円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要(8月21日現在)

利用者人数	18名	男性	3名	女性	15名
要介護1	3名	要介護2	3名		
要介護3	6名	要介護4	4名		
要介護5	2名	要支援2			
年齢	平均 84.2歳	最低	68歳	最高	99歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	くさかベクリニック キッタカ歯科医院
---------	--------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

グループホームアポロン池田は、池田市の五月山近くの緑豊かな田園地帯の一角にある。事業所開設からまもなく5年を迎え、設立当初からの介護理念である『利用者をおかさない』『利用者に関わる』ということについて、運営者・管理者・職員の全てが、その手ごたえに自信を深めている状況である。それは、本来の「目的と使命」である、認知症の進行を遅らせ、失われた機能を回復させ、自立を助けて、自信を持って明るく生き生きと自分らしく生きてもらうということ。その為、日中の活動は、睡眠・食欲・便通を重視して対処している。近隣の方にもその存在が認知されており、散歩など外出の際の声掛けはもちろん、新鮮な手作り野菜の差し入れや旅先の土産物などを頂いている。

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価での改善課題として、次回の自己評価のありかたについて、全職員の参加する取り組みが求められていたが、評価結果を運営委員会や職員の会議などで十分に分析・検討しており、指摘された事項は実質的な介護の場面で生かしていることが確認出来た。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	今回の評価は、管理者が中心に取り組んだが、評価の意義については、自分の立ち位置を確認するGPS(全地球測位システム)のような役割と理解して取り組んでいる。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	2ヶ月に1回の開催、過去13回の実績は、理念や方針、利用者の状態、外部評価の結果と新しい基準、全国グループホーム大会の報告、介護労働力不足の動向、終末期ケアの問題点、認知症医療、看取り等について、幅広く話し合っており、サービスの質向上につなげている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営へお反映(関連項目:外部7, 8)
	3ヶ月に1度の介護計画書の送付時に、「希望書」を同封して家族の意見を求めるとともに、ホーム内に意見箱を設けて意見・苦情を吸い上げて、運営面に生かすよう努力している。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目④	利用者が、散歩や買物での外出の際、近隣の方からの声掛けや手作りの野菜の差し入れがあり、近くの本部神社の夏祭りでは、事業所の駐車場がカラオケ会場になるなど、事業所設立から5年目に入り、地域に完全に溶け込んでいる。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	認知症高齢者を最高のノウハウをもつての真心こめたケアにより、家族の負担の軽減をめざす。家族・地域とボランティアの方々の協力で、介護福祉の理想を追求することと、関わる全てのスタッフのやりがいと満足感を持てるよう努力するとの事業所独自の高い理念を作りあげている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	運営管理者、職員の全てのスタッフが理念を共有し実践されていることが、訪問調査において見聞したことで、十分に立証できた。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	利用者が、散歩や買物での外出の際、近隣の方から声かけがあったり、手作りの野菜の差し入れがあったり、近くの本部神社の夏祭りでは、事業所の駐車場がカラオケ大会の会場になるなど、事業所設立から5年目に入り、地域に完全にとけこんでいる。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	運営者、管理者は自己評価、外部評価を自分の立ち位置を認識するGPS(全地球測位システム)のような役割と理解し、年1回の評価を改善につなげる機会であるとして対処している。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、2ヶ月に1回開催、過去13回の実績は理念や方針、利用者の状態、外部評価の結果と新しい基準、全国グループホーム大会の報告、介護労働力不足の動向、終末期ケアの問題点、認知症医療、看取り等について、幅広く話し合っ、サービスの質向上につなげてきている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	地域包括支援センター職員には、運営推進会議に必ず出席してもらい、そのときどきの意見を頂く他、池田市の担当課長には、議事録の提出時や、事業連絡会の際などに適切なアドバイスや指導を頂くなど、連携重視の取り組みをしている。		
4. 理念を実践するため体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者の暮らしぶり、健康についての報告を兼ねて、3ヶ月に一度介護計画者を作成し、家族に送付している他、ことあるたびに電話で連絡をとっている。又年4回ホーム便り「アポロン通信」を発行して家族に情報を提供している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	2ヶ月一度の運営推進会議の場、3ヶ月に一度の介護計画書送付時に「希望書」の同封、ホーム内の意見箱の設置等家族の意見苦情の吸い上げに努め、それを運営に反映させるよう努力している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	開業当初の職員のユニット共通化に変えて、2年前から職員をユニット毎に固定し長く担当することで、利用者に安心感を与えている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	運営者、管理者の目指す関わりを深める介護の実現のため、新人の1ヶ月見習い研修、3ヶ月目の本採用テスト、1年目の更新時研修を実施している。主任、リーダーには機会あるごとに、社外研修の参加を勧めている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	池田市が定期的に主催する事業者交換会に参加する他、市内のグループホーム8事業所の管理者が2ヶ月に1度連絡会を開催して、情報交換や勉強会をもって、サービスの質の向上に取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居の相談を受けた時は、見学時間を長くとり、まず馴染んでもらうようしている。入所当日はホーム長が勤務に入り介護方法を指導し、夜勤には主任、リーダーなどベテラン職員が担当するなど自然に馴染めるよう配慮している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	管理者および職員は、利用者と「常に関わる」「一緒に行動する」ことをモットーに取り組み、利用者の不安感を解消し、機能と自信の回復と明るい気持ちを持てる様支援している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者や家族から、暮らし方の希望や思いを聞き、その人らしい生き方をするため、元気で自立が大切と考えて全力で支援している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者個々の介護計画は、家族の希望や職員の意見を聞くことはもちろん、作成担当者が直接ケア現場に入り、本人の様子を把握して、介護計画に反映させている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月ごとに介護計画の評価と見直しがされている。見直し以前に状態の急変があったような場合は、その都度関係者と話し合い、現状に即した計画にするよう見直ししている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	昨年2月に認知症対応型通所介護、今年1月に短期利用共同生活介護(ショートステイ)の指定を受けたこともあり、ホームの利用者との交流ができています。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者と家族の同意を得て、利用者全員が協力医療機関のくさかべクリニックの医師をかかりつけ医としている。舞週木曜日に往診があり健康管理をしてもらっている。又、この医師が認知症の専門医であることから、家族の相談にも応じてもらっている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	「重度化した場合における対応に関する指針が」定められており、重度化段階、急性期段階、終末期段階の各段階で、家族と何回も打ち合わせて同意書を取っている。		
1. その人らしい暮らしの支援 (1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	管理者、職員は、高齢者がプライドを傷つけられることをもっとも嫌がる事を、十分に理解して、利用者の誇りやプライバシーを損ねることのない支援を心がけている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	このホームでは「業務」という言葉を使用せず、利用者の暮らしを最優先として、一人ひとりのペースを大切に、支援を全力で取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備、後片付け等は、女性の利用者にとっては機能改善の機会と楽しみの場ととらえ、利用者の出来ないところは職員がさりげなく補いながら、同じものを一緒に食べることで暮らしを共有している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	風呂は毎日沸かしており、風呂好きの人には出来る限り回数を多くして入浴を楽しんでもらい、嫌いな人でも週2回の入浴を出来るよう支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	管理者・職員は、利用者が張り合いや喜びのある日々を過ごせるようにするため、家事の当番を決めたり、憩いの時間にピアノ・ハーモニカの演奏を依頼するなど、工夫した支援に取り組んでいる。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ホームの周辺が植木に囲まれているので自由に庭に出て、戸外の刺激を受けている。毎日散歩の時間を設けて連れ立って、近くの神社や買物に出かけている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	以前は鍵をかけないケアに取り組んでいたが、利用者の一人が外へ出て、迷子になった経験から、利用者の安全を優先することにして、家族の了解を得た上で、出入口に鍵をかけている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	深夜・早朝・日中と様々なケースを想定して、防災訓練を年2回消防署の協力のもと実施しているが、消防署からは協力は年1回として、後の1回は自主訓練をといわれているので、今後は日頃から良好な関係にある近隣の協力を求めた対応を考えるという。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスやカロリーを考慮した1ヶ月分献立表を前月に作成している。利用者個々には介護計画書に基づき、状況に応じて食事の形状や分量を加減している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	廊下・居間・食堂の床は木目調で畳コーナーを含めて、落ち着いた明るい雰囲気となっている。居間には大きなソファが置かれ、季節感を感じられるように、季節の花や行事の飾り付けを行い、ゆっくりとくつろげる雰囲気を作っている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、使い慣れた家具や仏壇、写真などが持ち込まれ、それまでの暮らしに近い生活の延長が確保されている。		